

本科 10月9日(木)

第34・35回講座 「観光まちづくり」

講師 鄭 一止 (チョン イルジ) 氏 (神奈川大学建築学科 助手)

人見 邦良 氏 (ふなばし街歩きネットワーク 事務局長)

日時 10月9日(木) 10:00~15:00

場所 船橋市勤労市民センター会議室 及び船橋市街

テーマは、「場所の記憶」に基づいたまちづくり

「場所の記憶」に基づいたエコミュージアム型まちづくり、ちょっと耳慣れない言葉で始まった講義でしたが、鄭講師が関わられた「館山まるごと博物館」のまちづくりを事例に、地域遺産の保存や地域性を活かしたまちづくりの内容が紹介され、地域性(場所の記憶)を活かしたまちづくりを考えるうえでのヒントとなる講義内容であった。

そして午後の街歩きを前に、ふなばし街歩きネットワークの生い立ちや活動内容などについて人見事務局長から紹介され、具体的なまちづくり活動の内容を知ることが出来た。

午後は、ふなばし街歩きネットワークのメンバーの皆さんの案内で、御成街道400年記念で企画された「御成街道歩き」、「船橋漁師まち歩き」そして「船橋の中心街歩き」と3班に分かれて船橋の街歩きを体験した。何気なく見過ごしていた街中での新たな発見や、街歩きによる街の活性化に取り組むシニアの皆さんの熱意を感じる街歩きとなった。



建築学がご専門の鄭講師の講義はシニアにとっては少し高度な内容となった。



ふなばし街歩きネットワークの生い立ちについて説明する人見事務局長

(以下で「御成街道歩き」の様子を紹介します。)



御成街道 400 年記念 歴史・見て・歩きのルートについて説明を受け、さあ街歩きに出発！（第 1 班）



御成街道の起点近くにある西向き地蔵では 6 体の地蔵が西を向いて並んでいました。



11 代目 300 年の歴史を持つ広瀬直船堂、江戸と成田の真ん中を意味する「まん中 饅頭」今は売られていませんでした。



明治 5 年に建て替えられた森田呉服店、普段着の着物などと併せて、古い街並みを描いた手ぬぐいも売られていました。



日本で一番小さい？東照宮、家康が土気、東金で狩猟をした際に宿泊した船橋御殿の跡地に残されています。



かつてはすぐ近くまで海であった船橋大神宮、境内には戊辰戦争で焼失し、明治 13 年に再建された灯明台がありました。